

おともがわ

学校報 NO. 28

保護者版

平成28年10月 7日

みんなで育む豊かな心・健やかな体・確かな学力

10月1日(土)空瓶・空缶回収

天候にも恵まれ、前日に搬入してもらった(社)空瓶・空缶も含め、たくさんの空瓶・空缶を回収頂きました。

当日の活動は、空缶で30分程度。空瓶で1時間程度に加え搬出作業にも時間がかかり8時半を過ぎていました。作業頂いた保護者・児童の皆様、また、協力頂きました役員の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

また、今後とも宜しくお願い致します。



10月4日(火) 全校稲刈り

前日までの雨が嘘のように晴れ上がり、無事に縦割りグループで稲刈りを行うことができました。ひとえに、JAの方々や保護者の方々並びにコンバイン持参で協力頂いた中邑夫妻(眞梨奈さん父母)に感謝申し上げます。



10月5日(水) 就学時健康診断

平成29年度入学予定者14名の内科・歯科検診(社)や小学校で生活するための適応力等に関わる調査(社)や検査(視力・聴力)を行いました。前日も全校稲刈りの応援にきてくれた内小友保育園の年長さんたちは、1時間余の活動でしたが元気に過ごしていたようでした。



第8回6年生交流野球大会(太田大会)

第3位 大曲西チーターズ (大川西根小との合同の6年生チーム)

9月25日に行われた大会の賞状を今日伝達しました。

上記チームも含めたスポ少や器楽部の活動や普段の学習や生活でも、普段行っていることが成果となって現れているのか分からないことが多々あります。しかし、毎日の積み重ねが必ずはっきりとした形となって現れてくること示唆したく、前期終業式で以下のような内容(ソップ童謡)でお話ししました。



ぶどう畑の宝 頑張ってもすぐに結果が出ないときは…

お父さんと3人の息子たちがいました。4人は広いぶどう畑をもっていました。4人とも真面目で、たいへんな働き者でした。

ある日のこと、お父さんは病気になってしまい、自分の命が残り少ないことを知りどうすれば子どもたちが真っ直ぐ生きていってくれるだろうかと考えて、子どもたちを枕元に呼ぶと言いました。

「愛する子どもたちよ、私の命はやがて終わるだろう。私の持っている貴重な財産はぶどう畑の中に隠されている。ゆっくりと畑を掘って探し出すがよい。その宝を手にして幸せになるんだぞ」お父さんはこう言い残して、息を引き取りました。

それからしばらく経って子どもたちは手分けをして広い畑を掘り返しました。しかし、来る日も来る日も汗を流して畑を隅から隅まで掘り返しましたが、宝を見つけることはできませんでした。

やがて子どもたちは宝をあきらめ、また、せっせと畑仕事に精を出しました。そして、秋になりました。ぶどう畑には今年もたくさんぶどうがなりました。今までのどの年よりもすばらしいぶどうがたくさんたくさんなりました。それらを町へもっていくと、とても高い値段で売れました。そして3人に、たくさんのお金が入ってきました。

「そうか、分かったぞ！」ある日、息子の1人が言いました。「畑の宝の意味がぼくには分かったんだ！」「ええ？ 一体どういうことなんだい？」あとの2人が聞きました。

「お父さんが宝が埋まっていると言ったのは、一生懸命、畑仕事をしろということだったのさ。そうすれば、立派なぶどうがたくさんとれる。それがぼくたちにとっての宝ということなんだ。てっきり畑の下に何か埋まっているものだとばかり思っていたけれど、それは違っていたんだ。今年は、ぼくらが宝さがしで畑をあちこち掘り返したのが、たくさん畑を耕したことになって、ぶどうがたくさんとれたのさ」

その説明を聞いて、2人も納得しました。父親が残した宝物を、しっかりと受け取った3人は、その後も苦労をいとわず、真っ直ぐに生きていったのでした。

いかがでしょうか。この話の中の父親のように、親は誰しものが、子どもに真っ直ぐ生きていってほしいと願うものだと思います。そのために、親は何をしたらいいのでしょうか。そして、何をしてはいけないのでしょうか。

◆目に見えない努力を続ける力を与えてやりましょう

果物・野菜・花・米などを育てるための世話は、どれも毎日手を抜くことは出来ません。実りを目にするまで安心は出来ません。人は目先のことにとらわれがちですが、今頑張ったことがすぐ形になるとは限らないので、焦りを感じることもあります。この話は、なかなか努力が結果につながらない時に頑張る元気を与える内容だと思います。

子どもが頑張っているのなら、結果が出なくても責めてはいけないと思います。ぶどう畑のお父さんのように「宝物が埋まっている」と子どもを励ますのです。夏休み前集会で子どもたちにお話しした「努力は報われる」にもあるように、目に見えない努力こそ貴重な宝物でもあります。親から見て『無駄な努力』に思われる行動に対して、「やっても無駄だからやめろ」「将来の何にも役に立たない」などと理由付けして、楽な方・安全な方に向かわせた場合、失敗はせずに済みますが生きる力にはなりません。取り返しのつく失敗を繰り返しながら、耐性や解決能力を身に付けていくことが大切です。内心は不安でも泰然自若とした態度を見せる親のゆとり(?)が、子どもを伸ばす条件でもあるのです。